



優しい風の吹く街



2026年度がスタートしました。

宝塚市では厳しい財政状況が続いていますが、昨年4月に森臨太郎市長が就任され、行財政改革がすすんでいます。春には国からの地方創生臨時交付金で商品券をお届けすることが決まりましたが、まだまだ生活に直結する課題は山積しています。私はこれからも、子どもたちや弱い立場の方々に寄り添い、一つずつ課題を解決できるよう一生懸命に頑張っていきます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

活動報告

10月

- 8・9日 姉妹都市松江市議会議員交流研修会
- 11日 小林だんじり曳行
- 17日 宝塚市議会報告会
- 19日 宝塚九条の会総会
- 25日 人権啓発研究兵庫県集会
- 26日 尼崎朝鮮初中級学校愛校祭
- 31日 広報広聴委員会オンライン視察
宝塚市戦没者追悼式

12月

- 4日 広報広聴委員会
- 6日 異文化相互理解事業講演会
- 13日 部活動地域展開学習会
- 17日 全県網の目要請行動
- 21日 宝塚ハーフマラソン
- 22日 文教生活常任委員会所管事務調査

12月議会 11月17日～12月19日

11月

- 3日 女性のための政治スクール
- 5日 高校生平和大使西宮市長訪問
- 8・9日 ひょうご教育フェスティバル
- 15日 PFAS学習会
- 17日 ヒューマンライツ議員の会
- 23日 青空対話集会
- 29日 交通安全市民カーニバル
- 30日 西谷収穫祭



質問事項

1

職員の働き方改革や 新たな職場風土の創設について

<質問>

ダイバーシティ推進の観点から多様な属性の人々で組織を構成できているか。具体的方策は。

<市長答弁>

障がい者の採用に努め、多様性を認める風土づくりのため、セクシュアリティ・障がい・外国人などの多様性を学ぶ人権問題職場研修を毎年実施している。

<質問>

公正なアプローチを示すエクイティの観点から、個人差に見合ったリソースの配分や支援はできているか。個々の力が最大限に生かせる機会はあるか。

<市長答弁>

育児や介護に関する休暇・時差出勤・リモートワーク・病気やケガをした場合の休暇・休職など職員の事情に応じて利用できる制度を設けている。

<質問>

女性活躍推進、女性リーダーの登用・育成にむけたプログラムは用意されているか。

<市長答弁>

行動計画を策定し、出産・育児をしやすい環境整備と女性職員の活躍推進の方針明記と女性管理職比率の目標設定を掲げている。

- ・CXO補佐官によるキャリア研修の実施
- ・自治大学校・女性職員研修への職員派遣
- ・国や県のキャリア形成のための研修受講奨励など

<質問>

市役所としてのパーカス（存在意義）を共有しているか。働きがいのある職場づくりのために、

明確な目標と認め合える職場風土の醸成が必要ではないか。

<市長答弁>

本市ではパーカスという言葉は用いていないが、総合計画・行財政経営方針・施策評価に関する市長等との対話を通じて組織目標を共有している。上司から業務の重要性や意義を伝え、職員の役割や組織への貢献度を互いに確認し合うよう努めている。

質問事項

2

教職員をハラスメントから守る ウェルビーイングな職場づくり

<質問>

学校に対しての不当な要求や暴言など、教職員の人権を脅かす行為が続いている。保護者には誠意をもって対応しなければならないのは言うまでもない。しかし、授業時間が始まっていても暴言が続き、子どもたちの学習環境にも支障が出ている。その抑止のために、すべての学校に録音機能の導入はできないか。教職員が生き生きと働き続けることが子どもの学ぶ権利を保障する一歩になる。

<教育長答弁>

本市は既に多くの学校で通話内容を録音することができ、正確に記録を残すことや保護者対応に活用することができる。また、試験的に小学校3校において入電時に録音告知メッセージが流れるように設定し、効果があると報告を受けている。他の学校への導入も検討していく。

北野さと子の意見

保護者面談時に市教委やスクールロイヤーの同席等のフォローを引き続きもとめる。傷ついた教職員の心のケアも必要不可欠。さらに、スクールソーシャルワーカー等による子どもや保護者への働きかけやケアも大切である。

<質問>

児童生徒による教職員への暴行事案をどのように把握しているのか。その対応は。

<教育長答弁>

事案の内容・背景となる要因によっては、教育委員会が学校訪問し、事案解消にむけて協議する。学校のみで対応困難な場合は教育委員会・学校・SSW・SC・SLなどの専門職によるケース会議を開催し、指導方針や保護者支援について協議のうえ、役割分担をしながら早期解決に努めている。

<二次質問>

改善しない場合、関係機関に対応をもとめることはできないか。

<学校教育部長答弁>

阪神北少年サポートセンター等に相談し、学校への助言や保護者・子どもへの指導をおこなう。

<質問>

教職員に対するハラスメントを撲滅するために、保護者むけの啓発文書の作成をすすめられないか。

<教育長答弁>

宝塚市教職員の働き方改革基本方針に基づく啓発文書を作成し、発出にむけて準備をすすめている。

<二次質問>

市によって配置されている生徒指導緊急加配教員の増員などができるか。

<管理部長答弁>

県に生徒指導加配教員の増員を要望している。市の緊急加配教員は配置のあり方について見直していく。

<質問>

宝塚市からあらゆるハラスメントを根絶し、誰もが安心して学び、働き、生きていく街にするために条例策定や「ハラスメント撲滅宣言」をめざしてはどうか。

<市長答弁>

市の組織としては働きやすい職場づくりと公務能率の向上をめざすため「宝塚市ハラスメントの防止に関する要綱」を定めている。さらに職員が適切に対応できるマニュアルを作成しているところである。

<二次質問>

要綱とマニュアルの次は「撲滅宣言」を。

<二次質問 市長答弁>

ハラスメントのない街づくりにむけて講演会を実施する。差別・いじめ・ハラスメントを一体的に人権問題として捉え、実効性のあるとりくみを研究していく。

質問事項

3

青少年の声を
市政に生かす場や機会を

<質問>

子ども議会やシチズンシップ教育の次のステップとして、高校生・大学生年代の青少年が自分たちや課題と考えるテーマについて、交流・調査・研究する「ユース委員会」を創設してはどうか。

<市長答弁>

子ども基本法の基本理念の一つとして、年齢や発達の程度に応じたすべての子どもの意見を尊重することが掲げられている。本市では市政に関する前むきな提案やアイデアを募集するため、新たに市のホームページに「子ども・若者の“声”意見箱」を設けた。

北野さと子の意見

「子ども・若者の“声”意見箱」の設置は評価できる。そのような個々の提案や願いを繋げ、広げるための対話の場を創ることを目標にしてほしい。

<質問>

青少年の心身の健康や性の悩み事などを相談できる「ユース保健室」が必要ではないか。

<市長答弁>

ユース保健室はユースクリニックと呼ばれるもので、体・心・性・人間関係などの子どもや若者の悩みについて、看護師・保健師・心理士が無料で相談を受けるとりくみであり、尼崎市において市が後援し実行委員会形式で実施されている。本市でも試験的な実施の提案があり、協議をすすめている。

活動カトピックス



小林だんじり祭り

10/11



佐々木基文後援会長と

宝塚市立病院

12/18



「生」の石積み

12/6



最新型手術支援ロボット「ダビンチ5」が導入された。お披露目会で説明を受け、操作体験もできた。患者さんへのダメージを少なく、正確な手術が可能になる。病院建替費とダビンチ5の寄付者への感謝の意を込めて「ティナ5」と名付けられた。婦人科手術も再開し、地域の二次救急病院として進化していく市立病院に期待したい。



風のココロ



宝塚市ハラスメント撲滅宣言をもとめる質問に対して森市長は「差別・いじめ・ハラスメントを人権の問題として捉える北欧のオンブズパーソン制度のような先進事例も踏まえ、より実効性があるものを研究していく。」と答弁された。実現が楽しみであるし、誰もが住みやすいまちづくりに私も貢献したい。